

CONTENTS

企画展 彩生 -オランダ伝統の技と美-	
kinukoヒンダローベンスタジオ20周年記念展	2
ワークショップ 春桜 ~チェンバロの音色と共に~	3
第65回文化講演会	4
縁を偲んで	5
たより 芳村杏斎を訪ねて	6
友の会のページ 創立30周年記念研修バス旅行報告	8
NEWS FILE	10
資料館展示品から	11
INFORMATION (催し物の案内)	12

洋学 資料館

No. 4
June, 2011

仁木永祐生誕180年記念事業会によって進められた
募金活動で、津山市粉保にある顕彰碑が修復され、
その業績を紹介した立派な案内板も設置されました。
4月3日には除幕式が挙行され、地元のみなさんが
喜びを分かち合っていました。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

「春桜～チェンバロの音色と共に～」企画展の関連イベントとして、4月2日には永江先生を講師に迎え、スタッフホストの絵付け体験講座を開催しました。

「スタッフホスト」は、オランダのスタッフホスト・ラウフェーン村で400年以上続けられている伝統装飾です。釘などに絵の具を付けて、スタンプを押すようにして布に模様を施します。永江先生はビンダローペンだけでなく、スタッフホストの技術も習得されているのです。

開始前には企画展展示品のチェンバロの演奏も行われ、その音色を楽しんだ後、いよいよ講座のはじまりです。今回は釘を使って、色紙に桜の花を絵付けしました。最初に、釘の先の尖った部分を生かして、一枚ずつ花びらの形に絵の具をつけました。簡単な作業のようですが、きれいな形にするのはなかなかの至難の技。花びらができると、最後に虫ピンの頭の部分を使って、花の芯の部分を描き完成させました。

参加された皆さんは、四苦八苦しながらも先生にコツを教えてもらって樂しそうに取り組まっていました。そして終了後には「実際自分で体験してみると、展示してある作品を作るのがどれだけ大変かよく分かりました」となどの感想が寄せられました。



先生に教えてもらいながら作業を進めました



作成した色紙
掛け軸にして飾ることもできます

春桜～ 「チェンバロの 音色と共に」

企画展の関連イベントとして、4月2日

には永江先生を講師に迎え、スタッフホス

トの絵付け体験講座を開催しました。

「スタッフホスト」は、オランダのス

タッフホスト・ラウフェーン村で400年

以上続けられている伝統装飾です。釘を

使って布に模様を施します。永江先生はビン

ダローペンだけでなく、スタッフホストの

技術も習得されているのです。

開始前には企画展展示品のチェンバロの

演奏も行われ、その音色を楽しんだ後、い

よいよ講座のはじまりです。今回は釘を

使って、色紙に桜の花を絵付けしました。

最初に、釘の先の尖った部分を生かして、

一枚ずつ花びらの形に絵の具をつけまし

た。簡単な作業のようですが、きれいな形

にするのはなかなかの至難の技。花びらが

できると、最後に虫ピンの頭の部分を使っ

て、花の芯の部分を描き完成させました。

参加された皆さんは、四苦八苦しながら

も先生にコツを教えてもらって樂しそうに

取り組まっていました。そして終了後には

「実際自分で体験してみると、展示してあ

る作品を作るのがどれだけ大変かよく分か

りました」となどの感想が寄せられました。



4月23日目の展示解説では永江先生が作品に込めた思いを語られました



平成23年春季企画展 彩生～オランダ伝統の技と美～ kinukooヒンダローペンスタジオ20周年記念展

洋学資料館の常設展示室の扉が、オランダの民族模様「ヒンダローペン」で装飾されていることを御存じでしょうか？今回、その絵付けを担当されたkinukooヒンダローペンスタジオ主宰の永江絹子先生の全面的な協力をいただいて、4月2日から5月29日まで企画展を開催しました。

チエストや古楽器チェンバロ、時計など、先生とスタジオ講師の方々の手がけた作品約200点を展示。中には洋学資料館の装飾のデザイン案など、作品制作の過程が分かる資料もありました。

会期中には約3000人の方が訪れ、色鮮やかな装飾が施された作品の数々に魅せられたよう見入っていました。

縁を思んで

えにし



遺影を抱かれた紀子夫人とご長男岳志様・弘美様御夫妻
前庭の宇田川榕菴像「宇田川榕菴先生」の文字は
芝哲夫先生の揮ごうになるものです（平成9年11月）

昨年9月28日に逝去された故芝哲夫先生（大阪大学名誉教授）のご家族が、去る4月23日を開催した、春季文化講演会にあわせて来館されました。

芝先生といえば、細菌毒素の構造を初めて解明されるなど、有機化学の分野で世界的な業績をあげられた方。さらに日本化学史に関する著書を多数刊行され、化学史学会長など多くの要職を歴任されました。また、大阪大学が所管する、江戸後期の医師緒方洪庵が開いた「適塾」の研究や修復に尽力されるなど、洋学・蘭学の分野に

も大きな功績を残されています。

そんなこともあって、芝先生と当館とのご縁はとても古く、当館が開催した「久原躬弦を語る会」の講師としてお招きました。後藤良造先生（当時京都大学名誉教授）、丸山和博先生（当時京都大学教授）と共に、昭和57年4月には来津されています。その11月、友の会が実施した研修旅行では、適塾の見学に際し、休館の適塾を開ける手筈を整え、自ら解説してくださいたのも先生でした。

また、昭和62年5月に開催した文化講演会では、講師として

「オランダと日本をつなぐ科学のかけ橋」と題して講演。

さるに、平成10年10月に津山市で開催した化学史学会の誘致も、先生のお陰で決定したものでした。

芝先生は、誰に対しても分け隔てなく声を聞いてください



絹子先生

「私を魅了した、オランダ伝統工芸」

講師

Kinuko Hing-Darローペンスタジオ主宰 永江絹子 先生

4月23日には、永江先生を講師にお迎えし、第65回文化講演会を開催しました。当日は小雨の降るあいにくの天気でしたが、約100名の方が来場されました。

講演に先立つて、企画展で展示している古楽器チエンバロと、リュートやヴィオラ・ダ・ガンバの演奏会も行われ、聴講された皆さんには、古楽器が奏でる旋律にうつとりと耳を傾けていました。演奏されたのは、平山照秋さんと伊与田令子さんで、平山さんはチエンバロの制作者であります。

そして演奏の余韻の中で、先生のご講演がはじまりました。ご講演では、永江先生が技術研修のため2005年にオランダを訪れた際の映像を用いて、スタッフホストとヒングダローペンの歴史や魅力についてお話し下さいました。

スタッフホストの生まれた村は、アムステルダム北東の郊外にあります。家々のドアや窓枠は赤や青、緑など鮮やかな色でペイントされていて、道を行く女性は民族衣装に身を包んでいました。また、アイセル湖に面した港町ヒンダローペンでは、伝統的な工房の様子も映像で見ることができました。映し出されるオランダの美しい街並みや研修の様子に、来場された皆さんはじっと見入っていました。映像を通して、スタッフホストやヒングダローペンを生み出したオランダの風土を、より身近に感じることができたのではないでしょうか。

ホールでのお話を終えると、企画展示室に移動して一つ一つ展示品の解説をしていただきました。作品を制作するまでの苦労や想いなどをお話しいただき、改めて作品を見ると、また違った印象を得ることができます。

ホールでのお話を終えると、企画展示室に移動して一つ一つ展示品の解説をしていただきました。作品を制作するまでの苦労や想いなどをお話しいただき、改めて作品を見ると、また違った印象を得ることができます。

り、その解決に努力を惜しまない方でした。

そんな先生にもつとも厄介をおかけしたのが、同年10月開催した特別展「宇田川家三代自筆資料展」です。門外不出とされた武田科学振興財団杏雨書屋から、15点の自筆資料の借り出しが特例として実現したのも、芝先生のお力添えによるものでした。

新館建設が進んでいた平成20年7月、緒方洪庵記念会の先生方と来津された際、建築現場にも足を運ばれ、額の汗をぬぐわれながら「出来上がるるのが楽しみだねえ」と、開館したら是非駆けつけるよ」と、話しておられたのを昨日のことのように思い出します。その際、美作一円の洋学史跡の案内役を仰せつかり私も同行しましたが、視察途中の光景は、先生との想い出の一つとして今も鮮明に記憶に刻まれています。

その後体調を崩され、新館訪問が延び延びになってしまましたが「体調を整えて、新しい洋学資料館を是非とも訪問したい」と、最後まで話しておられました。

このたび、奥様と御子息夫妻が、先生の願いを叶えたいと、遺影と共に来館され、帰宅後仏前にも報告されたそうです。

芝先生の長年にわたるご指導に感謝を申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

文……館長下山純正

芳村杏斎を訪ねて

丸山富美子

私は、幕末から明治時代の医師・芳村杏斎の父方の玄孫であることを、最近になりました。と、言いますのは、父は、私が1歳の頃、事情があり、家を出ました。その後も、私が、25歳の頃、一度会つだけです。その上、私は8歳で、生家のある地域（現在の真庭市で、杏斎もこの地域で生まれています）を離れることになりました。そういうことで、父方について知る機会も殆どありませんでした。それでも、私が生まれ少し前に、祖父が生家の近くで医院を開業しておりました関係で、母、そして地域の人々に、父のこと祖父のこと曾祖父のことを断片的に聞くことができました。

私は長年、京都の大学病院で看護職に従事し、最近、現役を引退しました。父方のルーツを知りたいと考え、昨年11月、思い切って、先祖が住んでいたことがあるという津山を訪ねることにしました。洋学資料館のことは、深く知っていたわけではありませんが、そこへ行けば、何か分かるかもしれないとう考え、津山駅からタクシーで直行いたしました。早速、館内を見学させていただきました。何も分からぬかもしぬにかかりて、案内していただくことができ

杏斎は、坂本龍馬の1歳年上で、同時代の人物です。幕末に龍馬は政治に、そして杏斎は、医療に変化を求めるという目的で熱き思いを抱いていたと思います。杏斎は、西洋医学に対する強い意欲を持ち、幕末から明治にかけて、国内の蘭方医に留まらず、ポンペ、ボードウインから、西洋医学を学びました。ポンペは、幕府より正式に要請され来日した最初のオランダ人医師で、ボードウインは、ポンペの後任として来日し、オランダ人医師としてほぼ最後に帰国したと言われています。これは、明治政府が大学を創設するようになると、ドイツ方式に変更されたからということです。ポンペは、日本で初めて長崎に医学校及び附属病院を創設し、西洋医学教育を系統的に、そして臨床医学を中心に行ないました。

た。杏斎は、この時24～25歳でしたが、長崎に出向き、初めての西洋式近代的病院を見て、そして、どんなに興奮したかと、想像します。また、ボードウインには、大阪の医学校（現在の大坂大学の前身）が創設された、杏斎が33歳の時に指導を受けました。杏斎の蔵書目録を見ると、20歳頃（京都などで蘭方医に学んだ時代）から、大阪時代にかけて、多く書籍を購入しています。特に、30代になり、大阪の医学校で学び、大阪府病院（現在の大坂大学病院の前身）で勤務した時代に、最も多くの書籍を購入していました。このことから、この時期に最も意欲的に、西洋医学を吸収しようと考えていたことが推察できます。

そして、開業後は、診察に訪れる人々、および地域の人々に信頼されていたことを知り、尊敬の念と、嬉しさを覚えました。現在では、医学と言えば、一般的に西洋医学のことですが、漢方医が主流の時代に、西洋医学への道に貢献した医師の一人として努力したことが考えられます。私も同じ医療従事者の一人として、今後、杏斎のこと、そしてその時代背景を研究できればと、少しづつ勉強を始めているところです。これはまた、自分探しの旅にもなると考えています。

この4月に、学生時代の友人と津山への旅行を計画していましたが、都合により自身で行くことになりました。その日、京都

から津山に到着し、鶴山公園で花見をしました。そこで、小田中の方向をみて、杏斎の墓はどうだろう、墓参できる日が来るかもしれませんと、ぼんやり考えていました。その後、洋学資料館に行き、偶然、館長さんにお目にかかれて、案内していただくことができ

ました。杏斎は勿論、曾祖父、祖父の墓所にお参りすることができて、本当に嬉しく思いました。

洋学資料館の館長さんをはじめ、スタッフの皆様のご努力、そして、友の会の皆様、地域の方などの支えがあり、今日の洋学資料館があると感謝しています。今後もさらにも、発展していくことを期待しています。

津山高専と資料館
JST科学コミュニケーション連携推進事業に決定！

津山工業高等専門学校と資料館が共同で企画した「江戸時代の科学を楽しむ子供実験・工作教室」が、独立行政法人科学技術推進機構の主催するJST科学コミュニケーション連携推進事業に決定されました。

これは、昨年資料館で開催した夏休み企画「江戸時代の化学書からの再現実験」で、津山高専の佐藤誠先生が講師をしてくださったことをきっかけにして、企画が進められたものです。

洋学の町津山の歴史を活かして、近隣の小・中学生を対象に江戸時代の科学実験や工作教室を行います。そして、洋学者たちが何に興味を持ち、実験でどんな苦労をしたかを実際に体験してもらうことで、科学を楽しむ心を育成することを目的にしています。



平成23年4月、桜が満開の津山市小田中の芳村杏斎墓所をはじめて訪れた筆者

友の会創立30周年記念研修バス旅行

中九州の洋学史跡を訪ねて



中津の村上医家史料館で、川島先生のご説明に聞き入りました



記念館前の福澤諭吉銅像



福澤諭吉旧居

■ 鳥 棚

日田では最後にいいちこの蒸留所を見学し、大分自動車道を通つて佐賀県鳥栖市の中富記念くすり博物館へ向かいました。この地域は、江戸時代に「田代売薬」が栄えたところで、同館はくすりの歴史を後世に伝えるために、久光製薬㈱の記念事業として設立されました。館員の前田ゆいさんに詳しく述べていただき、そのままの形で移設されたイギリスの薬局はじめ、江戸時代の薬舗の再現展示や数々の漢方薬など、たくさんのが、盛りだくさんの内容で充実感いっぱいの研修旅行となりました。

最後になりましたが、各地でご案内くださいた皆様に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

薰長酒蔵から出発して、町並みを散策し、廣瀬資料館へ移動しました。廣瀬家は豆田町でも有力な商家で、咸宜園を開いた廣瀬淡窓の生家です。館長の原田俊隆さんからご説明をいただき、展示された資料の数々を見ると当時の繁栄ぶりが伝わってきました。

次に咸宜園に移動し、居宅「秋風庵」でご説明をいただきました。咸宜園は淡窓が開塾してから明治30年まで5000人の門人が学んだ私塾で、宇田川興斎も江戸で2代目塾長の廣瀬旭庄に入門しています。付属の教育研究センターでは門人録調べることができ、興斎の他にもう一人美作出身の入塾者がいたことが分かつて大収穫でした。



史跡咸宜園内の秋風庵で、咸宜園の教育についてご説明いただきました

氣の早い台風の影響で全国的に雨模様となつた5月28日と29日、友の会創立30周年を記念して、大分と佐賀の洋学史跡を巡る一泊二日の研修バス旅行を行いました。朝6時半に津山を出発して、中國自動車道をひたすら西へ。途中、日清講和条約の締結場所として知られる下関の史跡・春帆樓でふぐ料理を昼食にいただきました。それから再びバスに乗り、2時間ほどで大分県中津市に到着しました。

■ 中 津

江戸時代、中津藩からは前野良沢と福澤諭吉をはじめ、著名な蘭学者・洋学者が輩出されています。最初に訪れた村上医家史料館も江戸時代から続く医家で、7代目の玄水は九州でかなり早い時期に腑

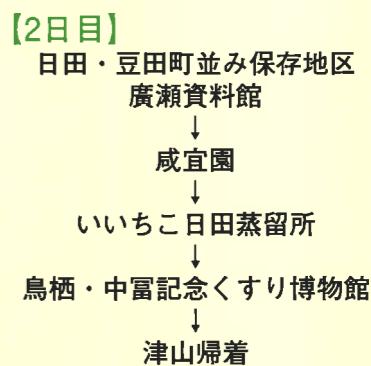
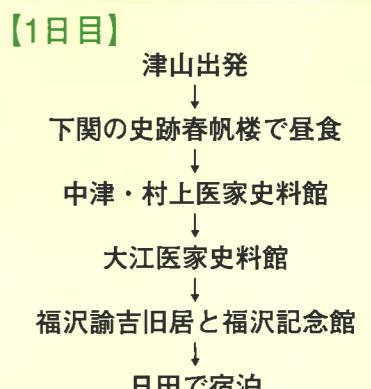
分けを行つています。ここで、川島整形外科病院院長で医史学会の重鎮である川島眞人先生、中津市歴史民俗資料館館長の田中布由彦さん、ボランティアガイドの宇都宮泰子さんが迎えてくださいました。

中津の医史学研究の第一人者である川島先生が、村上家と大江家について熱くご説明くださり、中津を誇りに思われる気持ちがとてもよく伝わってきました。

福澤諭吉旧居・記念館では、宇都宮さんと田中さんがご説明くださり、様々なエピソードに諭吉の少年時代を偲ぶことができました。

■ 日 田

29日は最初にホテルからほど近い豆田町伝統的建造物群保存地区



資料館展示品から

榕菴の張込帳に秘蔵された、だまし絵

さや絵



「宇田川榕菴張込帳」の中に収められたさや絵と榕菴コーナーのだまし絵



女性を描いたものとは分かるのですが、頭の長い、奇妙に湾曲した姿。これは一体何なのでしょうか。

日本では「さや絵」と呼ばれるだまし絵です。絵の上に円筒形の鏡を置いて絵を映すと正しい形が結ばれ、はじめて何を描いてあるかが分かります。日本では、鏡の代わりに黒光りする漆塗りの刀の鞘(さや)を用いたこ

とから、さや絵と呼ばされました。さや絵は、中国が起源とされ、17世紀

前半にヨーロッパへ伝えられました。その後オランダを通じて日本へもたらされ、寛延3年（1750）には『鏡中図』といふ本が作られています。広く知られるようになつたのは寛政年間（1789）1802）頃と伝えられています。

写真のさや絵は、足の辺りに鏡を置いてみると髪を高く結いあげた花魁の姿が映し出されます。宇田川榕菴が秘蔵していた張込帳の中に、ヒボクラテス像や権太図、大砲の図などと共に貼られているものの一

つです。いつ、誰がどのような経緯でこの絵を写したのかは記されていませんが、海外から伝わった珍しい遊びとして、コレクションに加えたのではないでしょうか。張込帳は今、常設展示室の榕菴コーナーに展示しています。実はこの部屋の壁には、さや絵であるトリックが仕掛けられています。これを皆さんご存知でしょうか。鏡のぞいて何が映し出されるかは、ぜひご来館してご確認いただければと思います。

文：学芸員 田中美穂



学校事務職員研修会で 館長講演

5月16日（月）に、グリーンビルズのリージョンセンター（津市大田）で行われた美作地区小・中学校事務職員協議会の研修会に招かれて、下山館長が「素晴らしい津山洋学の足跡」のタイトルで講演を行いました。

昨年に引き続き、今年もげんぱプロジェクトで津山市内の小学6年生は全員資料館を見学することになりました。資料館と学校現場との連携が色々な側面から、更に深められています。

5月31日（火）、kinuko binidaroーペンスタジオ主宰の永江絹子先生より、資料館にチエストが寄贈され、贈呈式が行われました。

チエストはビンダローペン装飾

で伝統的に使われている落ち着いた赤を基調にしており、正面には旧約聖書の勇者の生還の場面の絵が描かれています。

実はこのチエストは洋学資料館

の新館を建設する際に、展示室の室内装飾のイメージを得るために建築家の富田玲子先生に永江先生がお預けしていたことがあるといふことで、その頃から資料館への寄贈を考えておられたのだそうですね。

式では永江先生が館長に目録を手渡され、館長が感謝状を贈呈しました。

チエストはこれからしばらくス

ポット展示室で展示する予定です

ので、ぜひご覧ください。



4月23日（土）、洋学資料館を会場に岡山県の看護学生交流大会が開かれました。

企画で、倉敷市や岡山市、笠岡市など県内各地の看護学校の3年生約150名が参加されました。最初に館内を自由見学したのち、GENPOホテルで下山館長

が講演を行い、様々な困難にも屈せず研究を続けた津山の洋学者たちの挑戦について説明しました。参加された皆さんは真剣な面持ちで耳を傾けておられ、終了後には「とても勉強になりました」「また時間をとつて、ゆっくり見学したいです」などの声がたくさん寄せられました。

INFORMATION

平成23年度の催し物

	企画展
4月	<ul style="list-style-type: none"> ■企画展「彩生 - オランダ伝統の技と美 - 」 ■2 ワークショップ「春桜～チェンバロの音色と共に～」 ■23 第65回文化講演会 講師：kinuko ヒンダローベンスタジオ主宰 永江絹子 先生 ■23 友の会総会 (休館日：18・25・30日)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ■28・29 友の会創立30周年記念研修バス旅行 (休館日：2・6・9・16・23・30日)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ■企画展「資料が秘めた物語」 (休館日：6・13・20・27日)
7月	<ul style="list-style-type: none"> □4～8 燻蒸作業とともに休館 ■31 ヒンダローベン絵付け体験教室 (休館日：4～8・11・19・20・25日)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ■4 江戸時代の化学書からの再現実験 (休館日：1・8・15・22・29日)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ■企画展「蛮書と解御用と津山藩の洋学者」 (休館日：5・12・20・21・24・26日)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ■23 上廣倫理財団文化フォーラム (休館日：3・11・12・17・24・31日)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ■創立30周年記念セレモニー ■友の会史跡見学会 (休館日：4・7・14・21・24・28日)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ■企画展「幕末維新を駆け抜けた女医 光後玉江」 (休館日：5・12・19・24・26～31日)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ■友の会30周年記念誌刊行 ■第66回文化講演会（下旬開催予定） 講師：佐賀大学大学院教授 青木歳幸先生 (休館日：1～4・10・11・16・23・30日)
2月	<ul style="list-style-type: none"> (休館日：6・13・14・20・27日)
3月	<ul style="list-style-type: none"> (休館日：5・12・19・21・26日)

■企画展

■催し物

■講演会

■友の会

4/2～
・オランダ伝統の技と美
～5/29

6/11～
資料が秘めた物語
～9/25

10/8～
津山藩の洋学者と
～11/20

12月上旬
幕末維新を駆け抜けた女医
～光後玉江
3月下旬

平成23年度企画展 **資料が秘めた物語**

会期 6月11日(土)～9月25日(日)



— 臨時休館のお知らせ —

収蔵庫および展示室の燻蒸作業のため、下記の期間は休館いたします。

7月4日(月)～8日(金) 臨時休館

- 職員の異動 -

嘱託職員 下山あゆ子 平成23年4月30日 退職

嘱託職員 宮平理沙子 平成23年6月1日 採用

ご利用案内

■ 開館時間／9:00～17:00

(入館は16:30まで)

■ 休館日／月曜日（祝祭日の場合はその翌日）

祝祭日の翌日・年末年始（12月27日～1月4日）

■ 入館料／

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※（ ）内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



● 交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で10分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分